

(3) 教育研究計画

1 研究主題

意欲を持って問題に取り組み、共に学び合う児童の育成

2 研究主題設定の理由

○ 社会的情勢及び教育的課題から

今日の現代社会は、新しい知識や情報化の社会、科学技術の進歩により、日々目まぐるしく、変化や発展を遂げている「知識基盤社会」の時代である。この時代の変化に、柔軟に対応して、国際社会の場で活躍したり貢献したりすることができる日本人の育成が重要な課題であると言える。学校教育においても、これからの時代を担っていく児童が、国際化の進んだ中で生き生きと生活をしていくためには、「生きる力」としての確かな学力をはぐくむことが重要であると位置付けられる。また、PISA 調査等から、身に付けた知識や技能を生活や学習に活用したり、学ぶ意欲を高めたりすることが課題として挙げられる。

このような情勢のもと、算数科では「算数的活動の楽しさ」「表現する能力の育成」「活用することの重視」が新たな方向性として示されている。児童が意欲を持って課題に取り組み、児童同士が共に学び合いながら活用力を高めることのできる授業作りをしていくことが求められている。

○ 研究経過及び児童の実態から

本校では、平成 27 年度からは、研究教科を「算数科」に据えて、「主体的な課題解決」「共働的な学び」に焦点を当て研究に取り組むこととした。これは、確かな学力を育むために、自らの課題を明らかにして解決を図ったり、自他の意見や考えを結び付けたりしながら、意欲的に問題に取り組む児童を育成したいと考えたからである。

そのためには、「算数的活動」を取り入れ、児童の学習への意欲を喚起したり、児童に思考や判断を促したりする工夫が必要と言える。同時に、「式で表したら」「表に整理したら」等、多様な解決の方法や手順を用いる良さに気づかせたり、「どんな決まりがあるかな」「約束事は何か」等、様々な具体例から本質を見極めたりすることができるような形態が求められる。

平成 27 年度の取り組みでは、研究の 1 年目ということもあり、自分たちの指導技術を向上させることを主眼に、研究授業に取り組んだ。全職員が「主体的な課題解決」「共働的な学び」に焦点を当てながら授業改善に取り組んだ結果、既習内容を生かして自力解決しようとする児童や、考えを伝え合いながら課題を解決しようとする児童が以前よりも増えてきた。一方、問題の提示の仕方や見通しの持たせ方、自力解決や交流の場の設定の仕方、板書の仕方など指導方法についての課題も明確になってきた。今年度も引き続き研究に取り組むことにより、さらなる授業改善と児童のより良い変容を目指す。また、今年度より 2 年間、「児童生徒の活用力向上研究指定」を受けることとなった。上記の研究内容に加え、活用力向上のために中学校や家庭との連携の方法を探っていくことも求められる。

○ 本校の学校教育目標から

本校では、「心と知恵と技をとぐ上峰っ子の育成」を学校教育目標に掲げ、「礼儀作法、規範意識」「学習規律、学習習慣」「心身の健康、勤労体験」等を、目指す児童像として日々の教育活動を展開している。目まぐるしく変動を繰り返す時代の中にあっても、人は、自己と所属する集団のより良い成長と発展を願い努力を続ける。今を生きるその時々思い、その時々幸せを創ろうとするものである。そのためには、「生きる力」となる知識や技能、知恵や力を身に付けさせておくことが教育の大切な責務であると考えられる。

算数科では、知識や技能を身につけさせることはもちろん、それを「主体的な課題解決」と「共同的な学び」を通して、知恵や力へと高めていくことで、学校教育目標を達成することを目指している。以上のことから、本校の研究主題を「意欲を持って問題に取り組み、共に学び合う児童の育成」と定めて、授業実践を行うこととした。

3 研究課題

- 「生きる力」としての確かな学力を育むために、「意欲を持って問題に取り組み、共に学び合う児童の育成」を目指した算数科学習指導の在り方を探る。

4 研究仮説

- 算数的な処理の良さを実感できるような単元過程，学習過程を考え，教材提示，発問，応答，等，様々なしかけを施していけば，既習事項を生かしながら意欲的に問題に取り組み，友達と共に学び合うことのできる児童を育てることができよう。

5 研究内容

授業部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践をもとにした授業のガイドライン作り ・ 目標設定と評価規準，評価方法の在り方を探る。 ・ 環境整備，連携部へのマネジメント
環境部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 板書計画，ノート指導等に関するガイドライン作り ・ 学び合うためのスキル向上のための手立ての検討 ・ 低・中・高に応じたにこにこ学習の組織化
連携部 (家庭・中学校)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携推進委員会で決定した内容の実践化を図るための手立ての考案 ・ 低・中・高に応じた家庭学習の在り方を探る。

6 研究組織

